

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

(羽曳野市立埴生南小学校)

【調査の目的】

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の対象学年】 小学6年生

【調査の内容】

①教科に関する調査（国語、算数、理科）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・強化に関し、以下のとおりとする。

- ①身に着けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【調査実施日】 令和4年4月19日（火）

【調査結果】

『国語』

成果	<p>「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」設問 ⇒（要因）友達との日常会話や学習活動を通して、同音異義語（言葉についての学習）の学習を積み重ねてきました。</p> <p>「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える」設問 ⇒（要因）考え・意見の交流を通じ、相手が何を言わんとしているのかを考え、それらを整理し、深めていく学習を進めてきました。</p> <p>「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができるかどうかをみる」設問 ⇒（要因）国語のみならず、あらゆる学習活動の中で、友達の良い意見に対し、納得、感心、そして互いに認め合いながら、他者との対話・交流を進めてまいりました。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>「無解答率」(答案用紙に何も書いていない)が低い ⇒(要因)テストを受けた時などに「必ず見直しをする」「一部分でもいいので、書けるところは書く」「最後まで諦めない」という日々の学習に対する姿勢を育ててきました。</p> <p>「書くこと」について年々少しずつではあるが、正答率が高まってきている。 ⇒(要因)対話的で深い学びを追求する学習活動の中で、「話す力」「聞く力」「書く力」が相互に影響し、とくに「書く力」に結びついているのではないかと考えます。</p>
課題	<p>「お互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかをみる」設問 ⇒対話・交流の中で、まず、自分の考えを明確にする。「私は～と考えます。思います。」そして、メモを見ながら、話し合う中で出てきた言葉を整理して、短くまとめる練習をしていく必要があります。</p> <p>「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」設問 ⇒授業や宿題などで、文章を何度も音読して話の筋を把握する。その上で、物語における登場人物の気持ちを描写するいくつか表現を選び、授業で取り上げながら読み進めてまいります。</p> <p>「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうかをみる」設問 ⇒(頭括型、尾括型、双括型などの)文章構成について学んできたことを生かし、推敲しながら作文を書いていく取り組みを続けていきます。</p> <p>「人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかをみる」設問 ⇒聞かれていること(条件)を正確に把握する。その上で、自分の気持ち、出来事、未来の夢などを短い言葉で表現する(書く)練習に取り組みます。</p>

『算数』

成果	<p>2 (1) 「百分率で表された割合を分数で表せることをみる」設問 (果汁25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す。) ⇒(要因)・計算の力が定着していることが正答率を上げたと考えられます。 ・この問題は大問2の最初の問題であり、問われていることが明確であるため比較的答えやすい問題であったと思われます。</p>
課題	<p>3 (3) 「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることをみる」設問 (1年生と6年生が希望する遊びを調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ。) ⇒(要因)・円グラフの選択肢は3つあり、どれもよく似ています。調査結果を表す円グラフの対象が、(ア)1年生 (イ)6年生 (ウ)1年生と6年生 の違いであると考え、問題以前に書いてある女の子のセリフ「1年生も6年生も楽しめる交流会がいいですね。」から(ウ)を選択しなければならない。読み取りさえできれば選択は容易であると考えます。</p>

	<p>(ウ)を選択することができれば、決まる遊び「輪投げ」も連動して選択することは容易であります。この大問3（全4問）は生活の中で算数を活用する場面が題材となっており、そのストーリーを読み進めて、その中にある課題（問われている問題）を読み取ることが難しかったと考えられます。</p> <p>全問を通して</p> <p>⇒基礎基本の定着だけでなく、それが、どんな問われ方でも活用することができるようにすることが必要である。例えば、大問4で必要となる算数の知識は、</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 三角形の外角は120度（内角は60度）。 (2) 長方形の向かい合う辺の長さは等しい。 (3) ひし形の辺の長さは全て等しい。 (4) 平行四辺形の向かい合う辺の長さや角度はそれぞれ等しい。 <p>であり、4年生の知識があれば解答することができます。しかし、大問4は全部で9ページあり、複雑にされています。問題の字の量に臆さず取り組む前向きな気持ちも必要になると考えます。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

『理科』

<p>成果</p>	<p>記述問題について（書くことについて）</p> <p>⇒（要因）長年、本校での課題となっていた記述問題では、無回答率は国や府より少なくなっている設問もあり、前向きに取り組もうとする態度が見られ、書くことへの抵抗感が少なくなっていることが伺えます。</p> <p>昆虫の食べ物や天気と気温の変化などに関する問題について</p> <p>⇒（要因）身近な昆虫や自然の事象を、興味を持って観察に取り組むことができたからではないかと思われます。観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことにつながっているといえます。「生命」を柱とする領域の正答率が比較的高かったです。</p>
<p>課題</p>	<p>体積をはかりとる器具の名称を答える問題について</p> <p>⇒普段の様子を見ていると、実験には興味をもって取り組むことができているので、器具の正しい名称と使い方の理解が必要であることがわかります。</p> <p>記述式問題について</p> <p>⇒前述の通り、無回答率は高くないが、求められる条件を全て満たすことができず、一部のみ述べることにとどまっている児童が多い。実験の結果を文章で記述させることや、まとめの文章を書く際には、条件を満たして記述させることを普段から続けていく必要があります。</p>

『課題克服のために』

コロナ禍の中、様々な制約があり、問題解決型学習の授業づくりにおける【問題を把握する→学習課題をつかむ→見通しをたてる→自力解決をする→ペア・班などで交流する、発表する→考えを練り上げる→まとめる・ふりかえる】の流れでは、交流や発表の場面での取り組みに配慮が必要であった。

本校でも全教科で子どもが主体的に取り組む問題解決型学習を進めていくことに課題を感じている。特に主体的・対話的で深い学びの実現のために、どの教科においても、子ども自身が問題や課題に個人で向き合う時間を十分に設定すること、ペアや班を活用しながら相談したり、交流したり、教え合ったりする場面は必要であり、今後も創意・工夫をしながら ICT 環境を効果的に活用した授業づくりを進めてまいります。同時に、個の学びを広げる時間を設定することを大切にしていきたいと考えています。

『児童質問紙より』・・・アンケートから見える埴生南小学校の児童たちの様子

<p>成果</p>	<p>○設問10「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」 ○設問11「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」 ○設問15「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について ⇒全国や大阪府のデータより、多くの児童が肯定的（「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答）に答えており、前向きな姿勢や気持ちを持った児童が多い特徴がみられます。</p> <p>学校では様々な機会を通じて、子どもの自尊感情や自己有用感を高め、達成感を得られる取り組みを一層進めてまいります。</p> <p>○設問13「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 ⇒ほぼ全員に近い児童がいじめ撲滅に向けた強い意志を持ってくれています。平素からの仲間づくり・集団づくりの取り組みの成果が伺えます。</p> <p>○設問32「<u>5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか</u>」 ○設問33「<u>学校で、授業中に自分で調べる場面</u>で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」 ⇒週に3回以上使用したと回答した生徒が9割を超え、全国や大阪府のデータより本校のICT機器の活用が積極的に行われている様子が伺えます。</p>
<p>課題</p>	<p>■設問23「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」 ⇒設問に対して「全くしない」と回答した児童が約半数近くにのぼり、全国や大阪府に比べ顕著に多く、子どもたちの読書離れが懸念されます。ただ、設問26の「読書は好きですか」の問いには、6割を超える児童の肯定的な回答がみられることから、読書をする環境が整っていないことが考えられます。</p>

学校でも、毎朝の「読書タイム」の継続や学校図書館の本の貸し出しの推進、家読習慣の啓発等に取り組んでまいります。

■ICT 機器については、授業での使用は進んでいますが、活用場面については課題がみられます。

⇒設問34「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」や、設問35「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の問いに、月に1回未満と答えた児童が9割を超え、全国や大阪府と比較して大きな差がみられました。

課題

設問36の「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問いにほぼ全員児童が肯定的に捉えていることから、効果的な活用場面の一層の構築、授業づくりが必要であると考えます。

これらのアンケート結果より、学校ではICT機器の効果的な活用の研究を一層進め、様々な場面での利活用を進めてまいります。

■大きな課題として携帯電話やゲーム機等を介するゲームや SNS、動画視聴に費やす時間の多さに課題が見えます。

⇒設問5「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」の問いに、3時間以上と答えた児童の割合が4割を超え、全国や大阪府と比較しても大きく時間を費やしている状況が伺えます。また、設問6「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」の問いに対しても3時間以上と答えた割合が3割を超えています。

これらのアンケート調査から、子どもたちの携帯電話やゲーム機依存の心配が懸念されます。学校と家庭が連携して、適度な使用にとどめる家庭内でのルールづくりやセルフコントロールする力（自制心）を育む教育（取り組み）の必要を感じています。